

# えぬびい! Oh!

2017 春

Vol. 65



▶ 2～3P  
「つながる」「つなげる」きっかけ作り  
～タウンモビリティステーションふくねこ～

▶ 4～5P  
NPO法人 人と地域の研究所  
「若者×仕事×<sup>いなか</sup>地域＝未来」の方程式を問い続ける

▶ 6P  
軽やかな組織スタイルへ  
～NPO法人から任意団体へ～

▶ 7P  
NPO 高知市民会議事務局長として3年目を迎えて



# 「つながる」「つなげる」きっかけづくり

## ～タウンモビリティステーションふくねこ～

「タウンモビリティ」をご存じだろうか。「タウンIIまち」と「モビリティII移動性、動きやすさ」を合わせた言葉で、誰もが出かけたい場所へ自由に出かけられる、そんな街づくりを目指す活動のことである。あまり馴染みがなく、知らない人も多いのではないか。今回はその活動に注目し、NPO法人・福祉住環境ネットワーク高知(通称:ふくねこ)の代表、笹岡和泉ささおか いずみさんに取材した。

### ■「移動の権利」を保障する

タウンモビリティの発祥はイギリスで、日本では1999年に広島市でスタートした。高知市では、2010年の「ひとまちふれあいフェスタ高知」がきっかけとなり、取り組みが始まった。

ステーションまでは利用者自身が来る必要があるという点が、いわゆる送迎サービスと異なる。ふくねこが行うタウンモビリティサービスは、中心商店街の中で利用者の車いすを押したり、視覚障害者の手を引いたり



▲体重を預けて進める楽々カート

という付き添いで、利用料は一回500円(要予約)。また、車いす、シルバーカーなどの無料

貸し出し、商店街全体やそれぞれの店内のバリアフリー化を促進するための調査報告などを行っている。現在、平日に來られるスタッフが少ないためオープン毎週木・金・土・日曜(変更の可能性あり)となっている。

「当面の目標は、スタッフの数を増やしてオープン日数を増やすこと。最終的には、タウンモビリティがなくなっても困らないような、誰もが出かけやすいまちにしていきたい」と笹岡さんは言う。

### ■「つながる」ステーション

現在の場所にステーションができたのは2015年4月。タウンモビリティサービスの拠点となるだけではなく、障害者が利用できるトイレがある場所や、各店舗のバリアフリー状況を示したマップを置くなど、商店街の情報センター的な役割も担っており、地元

の買い物客だけではなく他県や海外からの観光客にも利用されている。障害に理解があるスタッフがいるということによって、利用者は安心して買い物ができる。これまで情報を得られなかったために外出できなかったという障害者のきっかけ作りになり、出かける楽しみを知った利用者はタウンモビリティサービスのリピーターとなって、さらに商店街の経済も潤うというわけだ。

ほかに、障害当事者同士やボランティアスタッフとの交流、情報交換ができる集いの

場としての役割もある。サービスを利用しない人でも気軽に来所し、おしゃべりを楽しむ。

「人それぞれ抱えている悩みは違うけれど、仲間と集まることによって、つらさを分かち合うことができる。ここに来て元気をもらった人が、またほかの人に元気を渡す。そうして人と人がつながっていく。閉じこもるのではなく、最初の一步を踏み出してここに来てほしい」そして、「誰もが、人の役に立ちたい、他人に喜んでもらいたいという思いを持っている。ここは障害に目を向けるのではなく、できることを生かせる場。自分の役割がある喜びを感じられる」とスタッフの福島富雄ふくしま とみおさんは言う。最初はふくねこの利用者として訪れた人がスタッフになり、イベントの講師になることもあるそうだ。

### ■みんなで歌おう！童謡教室

タウンモビリティのほかに、常設ステーションでは童謡教室や「島ぞうり彫り彫り体験」、交流会などのさまざまなイベントを行っている。

今回は、2016年12月10日(土)に開催された童謡教室にお邪魔した。この日はボランティアスタッフなどを含めて20人



▼室内は参加者の歌声でいっぱい

程度が集まり、高知県立大学の大学生も見られた。

まずは発声練習。顔の筋肉と、のどをほぐしてから、いよいよ本番。「きよしこの夜」などクリスマススムードを高める歌から、「大空と大地の中で」「さんぽ」などのみんなが知っている歌、民謡にもチャレンジし、とても盛り上がった。

「よっ、高知の松山千春!」「やったあ! お岩木山、歌いたかったんだ!」そんな声も飛び交いながら、のびのびと歌い上げた。ここでは、誰もが主役になれる。

## ■参加者の声

童謡教室の後、今回の参加者に話を伺ったところ、「気持ちよかった」「ストレス発散になった」「初めて参加したが、歌の力を感じた」「力をもらった」「仲間に会えて嬉しい」とな。どという声が聞こえた。

そして高知県立大学の学生たちからは、「学校で学んだ知識だけではわからない、実際の現場で貴重な経験を得られた」「病院の中ではなく、外にいるときの患者さんを知ることができた」という意見があった。

今回の取材では、障害の軽い人がボランティアとなり、より重い人を助けていたのが印象的だった。今までは、障害がある人イコール援助を受ける側だと思っていたが、それは間違っていた。できないことを嘆くのではなく、

自分にできることに目を向けるという生き方ができたらしいなあと思った。

突然の取材に快く応じてくれた童謡教室の参加者の皆さん、そして笹岡さんに厚くお礼を申し上げます。

(高知大学人文学部 すずき)



▲みんなで先生を囲んで謡います♪



▲京町商店街にあるステーション



▲タウンモビリティふくねこ 入り口

# NPO法人 人と地域の研究所

いなか  
「若者 × 仕事 × 地域 = 未来」の方程式を問い続ける

若者が地域への定住を考える際、切り離せない言葉がある。それは「仕事」だ。高知で「働く」とは、どういうことだろうか？そもそも、高知にはどんな企業がありどんな求人があり、どんな仕事があるんだろう？そんな疑問の解決をサポートし、若者と県内企業をつなぐNPOがある。そのNPOの大学生向けセミナーを取材させていただいた。

## ■就職活動をサポートするNPO

NPO法人人と地域の研究所(以下、研究所)では、若者(特に、就職を控えた高校生・大学生)を対象に、就職活動(就活)のためのサポートを行っている。

2016年12月14日、高知大学にて行われたのは、社会人の先輩方を招いて本音を語り合う大学生向け就活セミナー「先輩と語るう・会社を知ろう」。

12名の参加者が円卓テーブルに座って語り



▲就活セミナー  
『先輩と語るう・会社を知ろう』

合った。

学生がファシリテーター(進行役)を行い、参加者の意見を促す。

まずはそれぞれ順番に自己紹介から始まり、次第に学生たちは就活前の悩みや不安を漏らし始めた。

「英語を勉強しているけど、就活に有利になるんでしょか」「この仕事がやりたいと言えないものがない。このまま就活していいか不安です」

― 丁関連会社や保険会社、行政等々といった様々な業種で働く先輩方はそんな学生たちの本音に本音で返していく。

あつという間に時間は過ぎ、終わりの時刻が迫ってきた。終了後も先輩へ個別でアポイントの相談やSNSの交換をする学生たちに、筆者も就活生だったころの自分を重ねて思い出した。

終了後の参加者向けアンケートでは、

「公務員の方、企業の方がいたので幅広くお話が聞けて有意義だった。フランクな雰囲気

がとてもよかった」「先輩方が親身にお話しただけでよかった」と



▲セミナーの様子

たくさんのうれしい声が寄せられた。

## ■担当者・山田さんのおはなし

イベントの企画を担当する研究所の山田憲人さんにお話を伺った。



やまだ けんと  
山田 憲人さん

今回のセミナーは、就活の準備をしていきながら働くとはどういうことを考えていくことを目的に、その第1ステップとして開催しました。(第2ステップセミナー『人事と語るう』就職セミナー番外編として『鈴木賞子の就活何でも相談室』及び最終ステップセミナー『個別相談セミナー』は1月・2月に実施済みです。)

研究所では、こうしたセミナーのほかにも、『プロジェクト型インターンシップ』や県内企業を紹介する雑誌『G-motto』『シ』『フS』の発行やサイトの運営をしています。『プロジェクト型インターンシップ』とは、企業の悩みと大学生の発想力をマッチングさせ課題解決につなげると同時に大学生のインターンシップ(就労体験)をサポートする取り組みです。

こうした活動を通して、学生や若者が地域に出て、地域の企業と出会うための架け橋のような存在を目指しています。

研究所の理念として、「『人』や『地域』」は課題もあるけれども、いろいろ魅力も眠っている。それを発掘し、考えていこう」というものがあります。

学生が地域と関わっていくなかで、孤立せず、周囲の人やいろいろなものを掛け合わせ、自ら楽しく解決していく方法を見出してほしいと思っています。そうした体験のなかでやりたいことを見つけて、将来の仕事にかなげてくれればうれしいです。

そう語る山田さんの瞳はまるで学生たちの兄のように優しい目をしていた。

### ■ やさしい

取材にあたって、研究所のウェブサイトを見つけた。そこで見つけた一言をここでぜひ紹介して記事を締めくくろうと思う。

「若者には未来を切り拓く可能性がある、「いなか」には果敢にチャレンジする魅力的な人がいる。「若者×いなか」の方程式の先に、地域と日本の新しい未来がある。

(岡村 沙和)



## 研究所の今後のイベント情報

### ★ とともに塾 ★

大学生、特に1年生を対象に、働くこと・大人になることの楽しさの一端を伝えるセミナーです。講師陣は、現在を楽しみながら目の前を切り拓いている高知の企業人たち。連続講座を終えたあと、「自分も何かしてみようかな」ときっと思えるセミナーです。

**日時** 5月17日・24日・31日/6月7日

**全日程** 14時45分～16時15分

**会場** 高知大学朝倉キャンパス予定

**受講対象** 県内大学生(大学1年生を優先します)

**定員** 20名

**講師** 嶋崎 裕也 しまさき ゆうや  
(株)アースエイド代表取締役

田村 樹志雄 たむら きしお  
こうち企業支援センター理事長

麻岡 真理 あさおか まり  
ファーム輝代表取締役

申込方法：ウェブサイトの申込フォームよりお申し込みください。

# 軽やかな組織スタイルへ

～NPO法人から任意団体へ～

市民活動をしている中で、任意団体のままか法人格を取るうかと判断に迷うことはありませんか。

任意団体からNPO法人へ、そして悩んだ末再び任意団体へという経過をたどった、男女共同参画社会実現をめざしているこうち男女共同参画ポレール（以下「ポレール」とする。）の活動経過について、代表の松崎淳子さんと会計事務の坂本征子さんにお聞きした。

## ■法人格のメリットと義務

スムーズな市民活動には、安定した人材・資金や事務局の存在は大きい。そして、NPO法人や認定NPO法人になる大きなメリットは社会的信頼が高まることである。そのことで、団体の活動の場の広がりや活動する人の質・量が期待される。

しかし、それに伴う事務局の事務量が増し、負担増に繋がるといいう側面もある。



▲男女共同参画への変わりぬえを語る松崎代表

## ■資格指定管理者制度による管理運営公募

公共施設の管理運営に「指定管理者制度」が導入されることになり、2006年、「こうち男女共同参画センターソレール」（以下「ソレール」とする。）の管理運営にも導入されることになった。

それまでは、高知県と高知市が共同設置した「(財)こうち男女共同参画社会づくり財団」（以下

「財団」とする。）が管理運営を行っていたが、ソレールにも一般の事業者いわゆる企業の応募参加が可能になった。

しかし、当時は今と違い男女共同参画という意識が一般に浸透しておらず、企業の参入にはこの点で危惧があった。

## ■財団の精神を受け継ぐために

当時「ポレール」は「ジェンダー学習会」と称し、ソレールを自分たちの分身のように深くかわり見守ってきた。

ソレール管理運営の指定管理者募集にあたり、財団の精神を受け継げるのは自分たちだとの思いを強くし、公募参入に向け動いた。

公募参入には団体としての信頼性が重要となってくる。任意団体のままで応募するか、それとも参入の確実性を確保していくためにNPO法人になるのか。悩んだ末、NPO法人こうち男女共同参画ポレールが2007年4月2日誕生した。



▲「女性議員なぜ少ない! どうしたら増やせる?」谷口真由美さん講演会

## ■NPO法人としての活動と課題

ソレールの指定管理は、財団が応募したためポレールは公募参入せず、結果的に、財団が指定管理者として指定されることとなった。

しかし、ポレールはNPO法人になり信頼度が増したことで、設立後の活動はめざましく、3年目には県から「高知県地域サポート事業」の委託を受け、県内3市（香南市、四万十市、土佐市）で

の男女共同参画推進事業の企画・実施、ソレール受付業務、ソレールまつりでの6受託事業など、受託事業が増加した。

6年目に入った時、ポレール設立以来の事務局担当理事が県外へ転居、その2年後には後任の事務局長が急逝という、思わぬ事態に陥った。その後、会計担当も体調不良で交代を望むが、後任がないという状況から、事務局体制に大きな課題が生じた。

## ■事務をスリム化し、新しくスタート

このようなことから、NPO法人存続の必要性の検討に迫られ、存続か解散かの議論を経て、事務のスリム化のためにNPO法人の解散へと大きく舵をきる事となった。

そして、一年かけて解散の準備をし、2016年2月に新しい任意団体「ポレール」を誕生させ、3月末にNPO法人を解散した。

「NPO法人でなくなっただけで、やることはなんちゃあ変わらん」という松崎代表の言葉どおり、任意団体になっても目的や使命感は変わらない。ポレールは「男女共同参画社会の実現」という目的達成に向け、今までどおり自由で気軽に、常に新しい風を起こしつつ活動を続けているのである。



▲「あなたもなれる! 市民派議員」寺町みどりさん講演会

## NPO高知市民会議事務局長として

### 3年目を迎えて

**NPO法人NPO高知市民会議**

**事務局長 田中佐和子**

私が31年間務めた県庁を早期退職しNPO高知市民会議に再就職して、はや2年になるうとしています。この間、高知市まちづくり推進課（現在地域コミュニティ推進課）に人事交流職員として2年間派遣されたときの経験や人脈がとても役に立ちました。

#### ○良かったこと

NPO高知市民会議に入って何より嬉しかったのは、出勤時間が早番の日でも9時45分であるということです。以前は8時半までに出勤しなければならなかったために家を7時半に出て、入明町の主人の実家に車を置いてから、自転車で県庁まで毎日大急ぎで出勤していました。おまけに私の席が課長の目の前だったために絶対に遅れてはならないというプレッシャーもあって、毎朝が時間との闘いでした(笑)

もう一つは、先にも書いたように高知市在勤中にお世話になった地域の方やNPO関係者、高知市職員の方たちに久しぶりにお会いでき、一緒に仕事ができるとはとても心強かったです。「田中さん帰ってきた？」というんな方に声をかけて頂き本当に感謝しています。

#### ○ワークライフバランスは大事

退職した当初は、県庁に行き顔見知りの人に会う度に「どうしたか?」「何があったか?」「なんで辞めたか?もつたいない!」など同じことを言われました。それにはいつも「何もないよ、ちょっと母の体調が悪かったかね」と返してきました。もちろんそれは一番の理由ではありませんが、自分の体調がすぐれなかったことも理由の一つでした。

私のこれまでの仕事ぶりはまさにワークライフバランスを無視したものでした。特に地域支援企画員として春野町（現在高知市）に駐在していた4年間は、仕事がとても楽しくて仕方なかった時期でした。夜も9時ごろまで毎日のように地域の会議に出席し、その合間をぬってPTA活動までしていましたから睡眠時間は平均3時間程度というとてもハードな日々でした。まだ若かったのですがその時はさほど疲れを感じる事も無かったです。そんな日々が積み積もって、心も体も疲労困憊状況になってしまったのです。現在も忙しい毎日ですが、休みを活用して趣味の陶芸や木版画の制作、旅行などを楽しむ余裕が出てきました。



▲ふるさと中土佐町を題材にした作品を作っています。

#### ○3年目を向かえるにあたって

さて早いもので私も4月から3年目を向かえます。また、NPO高知市民会議も来年度から5年間、高知市市民活動サポートセンターの指定管理事業者に決定しました。

引き続き、高知市からの受託事業としてセンターの施設管理を行うとともに、市民や市民活動団体の方々に親しんでもらい、誰もが参加したくなるような魅力ある事業の実施を心掛けていきたいと思えます。また、中間支援組織として、市民活動団体間の連携強化、企業や行政との協働、県内の中間支援組織との連携など事業を通じて行っていきたいと思えますので、今後ともよろしくお願いたします。



▲ボランティアガイダンス2016で活動紹介をする事務局長「まちづくりファインド」の運営ボランティアをゲット! また、次年度応募したいという団体の相談も受けました。



# ことわざ まちがいさがし



## 間違いは全部で7つ!

ヒントはこちら▶ 河童の川流れ 猫に小判 蛇足 花より団子 鹿を指して馬と為す すずめの涙

答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。  
URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの

## つぶやき

発行 高知市市民活動サポートセンター  
企画編集 認定特定非営利活動法人 NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階  
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : [info@shiminkaigi.org](mailto:info@shiminkaigi.org)

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています



### @おおの

最近、舞台を観に行く機会が増えてきました。  
今年は何と!自分が舞台上がることに…  
今からドキドキです (>\_<)



### @みやわき

高知へ移って、早十数年。春といえば「イタドリ」が思い浮かぶようになりました。  
すっかり高知に馴染んだな～と思う春です。



### @しのみや

旅から帰ってくると、土佐の風土や気候の持つやわらかさと力強さに心安らぎ、そして弾む。  
故郷のありがたさを痛切に今日だ。



### @もりおか

憂鬱な季節。くしゃみ・鼻水は乳酸菌のおかげで随分楽。けれど家族は「年取って感じなくなったんじゃない」というショック!



### @たまき

急に予定が空いた日曜日。  
段ボール猫ハウスを作ったり、大量にポテトサラダを作ったり。良き時を過ごすことができました。



### @横田

色々な節目を迎える季節。  
気忙しいけれど、そんな時こそこれまでを振り返り、自分を労わり、メンテナンスすることが大事と知りました。感謝。